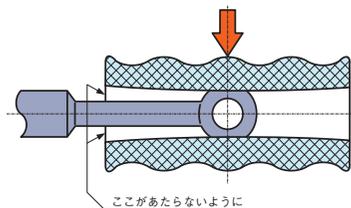


力のかけ方

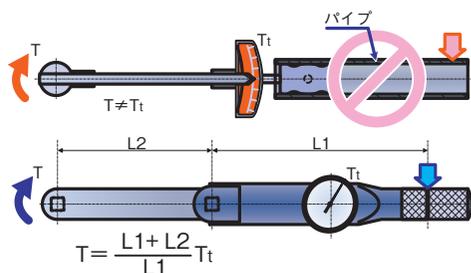
■力をかける位置でトルクが変化します。

1. プレート形 (F型) … ハンドルの中心 (ピン) に力をかける。
2. ダイアル形 (DB、T型) 力をかける位置の影響は少ない。
3. シグナル式 (QL、SP型) 握る位置でトルクが変化する。
有効長線を中心に握る。



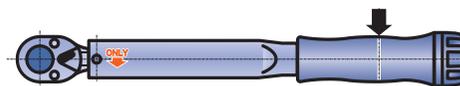
■トルクレンチを長くして使用する。

1. 手元につなぐのは不可 (目盛が正しく指示しない、危険)。
2. 頭部につなぐのはトルクは計算で出すことができます。



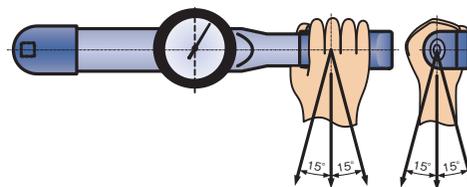
■力の方向

1. シグナル式 (QL、SP型) は **ONLY** 方向のみ
BQSP、BCSPIは両方向。
2. 力の方向はトルクレンチに直角に (上下左右とも±15°以内にする)。



■力のかけ方

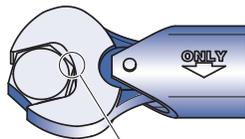
1. 静かに、はずみをつけない。
2. シグナル式 (QL、SP型等) はカチンと音がしたらすぐ止める。



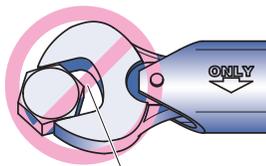
■トルクレンチとゆるめ作業

ねじのゆるめ作業では、トルクレンチはスパナよりは長さ (有効長) が長いので、オーバートルクしやすく、トルクレンチを損傷することがありますから十分注意して下さい。特にラチェットの切換えを行った後はラチェットが完全に噛合うことを必ずチェックして下さい。ラチェットが十分噛合っていないと危険です。

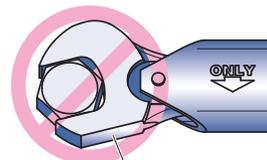
■SP型の注意



ボルト・ナットをスパナの奥まで入れて使います



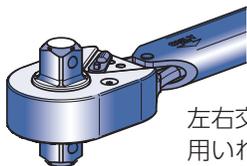
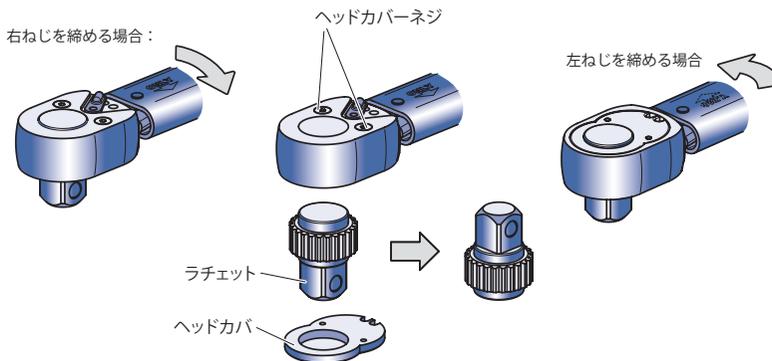
ボルト・ナットをスパナの奥まで入れないで使っていると、有効長がずれて正しいトルクで締め付けられないばかりか、スパナが広がったり、破損して怪我をすることがあります。



障害物を避けるため、スパナを削るのは危険です。最適な特殊形状のものを設計しますので、ご相談ください。

■左ねじの締め付け

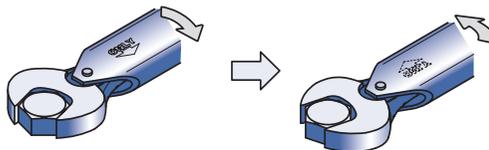
ラチェットタイプ ヘッドカバーネジを緩めて、ヘッドカバを外しラチェットを裏返して組込みます。



DQL/DQLE2 ▶P.208

左右交互に使用する場合は、上下に角ドライブのあるDQL/DQLE2を用いれば、トルクレンチを2本用意する必要がありません。

スパナタイプ



トルクレンチを裏返して使います。